

第10回「日本語大賞」

テーマ「忘れられない言葉」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「一人はさびしい事じゃない」

岡山県

学校法人就実学園 就実小学校

4年 詠田 乃愛

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

私は、一人ぼっちがきらいでした。いつも誰かがそばにいないと不安でした。強い口調で言われると言いつ返しませんでした。なのでいつも友達をしたい事に合わせていました。一人でいることがいやだったし、さびしかったからです。

ある日、私はお母さんに、その事について話しました。

「友達と遊ぶのは、楽しいけど、私のやりたい事とちがう時がある。でも一人がいやだからがまんして、友達にくっついて遊んでいたの。」

そんな私に、お母さんは言いました。

「自分がいやな時は、合わせなくていいと思うなあ。いつもいっしょでなくてもいいと思うよ。」

私は、

「でも一人だと、さびしいよ。」

と言いました。すると、お母さんは笑って言いました。

「そっかあ。ノアの中では、一人ぼっちさびしい事なんだね。あのね、一人は決してさびしい事ではないんだよ。誰かといっしょにいる事がいつも幸せとは限らないし、楽しいとは限らない。一人の方がいい事もいっぱいある。大好きな読書や、音楽を聞く時、絵をかく時、ノアはさびしい？ ちがうよね。楽しいし、幸せだよね。むしろ、一人の方がいいよね。」

私は、はっとしました。

「本当だ。さびしくない！ むしろ楽しい！」

私はお母さんに話した事で、心が楽になりました。

それから、私は変わりました。

「もちろん、友達と遊ぶ事は楽しい。誰かがいないと、できない事もある。でもむりに合わせ続けなくてもいいんだ。いやな時は、一人で楽しい事をすればいい。友だちは、人間だけじゃない。本だって音楽だって色えん筆だって、私の大事な友だちなんだから。」

と、思うようになりました。

『一人はさびしい事じゃない』

この言葉は、私にとって、一生忘れられない魔法の呪文です。